

トカラ列島諏訪之瀬島の植物採集記録

森田 康夫

The report of the plant collection on Suwanosezima in the Tokara Islands, Kagoshima Prefecture

Yasuo MORITA

はじめに

諏訪之瀬島は、トカラ列島の中ほど北緯29度40分、東経129度43分に位置し、東西5.6km、南北8.6kmの北北東から南南西へのびる紡錘形をした火山性の島で、面積22.3平方キロメートルと列島中では二番目に大きな有人島である。島の大部分は活火山御岳とその山麓とからなっており、わずかに島の南部のマッコ台や集落付近に平地が見られる程度である。

諏訪之瀬島の植物については、初島(1974)、(1991)、迫・桐野(1980)、川窪・田川(1991)、平田(1995)、志内(1995)等の報告があり、近年調査が進んでいる。初島の報告では、諏訪之瀬島の高等植物は1974年で211種。1991年は361種。迫・桐野の報告では349種。平田は388種としているが、その後も新たな移入種等によって増加しているものと考えられる。

この諏訪之瀬島において2000年12月5日から8日までの4日間、当博物館の資料収集活動の一環として、植物標本の採集および植物相の調査を行ったので、その結果を報告する。

今回の調査においては、現地に同行して植物の採集や同定などの協力をいただいた当博物館学芸指導員の丸野勝敏氏、植物標本の同定で指導をいただいた鹿児島大学名誉教授の初島住彦氏、さらに調査の便宜を図っていただいた十島村役場等多くの方にお世話をいただいた。この場を借りて深く感謝する。

1 調査地の植物概況

植物の採集と確認は、以下の地域で行った。

① 集落付近

集落は島の南部の西側に約30世帯がまとまっており、十島村役場の出張所や平島小中学校・諏訪之瀬島分校もこの地区にある。車一台が通れる程度の道路沿いには、高さ4mほどのリュウキュウチクやハゼノキ、イヌビワ等が垣根状に連なり、その前面にはアマクサギやツルグミ、マルバグミ等の灌木が生えている。ヘクソカズラやハスノハカズラ等のつる植物も多く

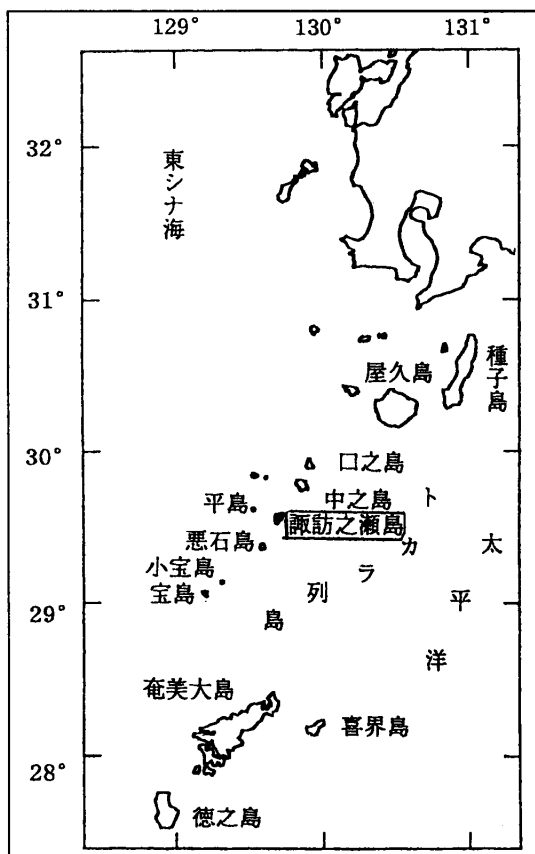


図1 諏訪之瀬島位置図

見られ、ムベはすでに花をつけていた。

② 牧場付近

大部分が背の低いリュウキュウチクに覆われている。所々にはトカラアジサイも見られ、牧場の入り口付近には、植栽されたものと思われるクロマツの群生地もあった。また、道路沿いには帰化植物のネピアグラスやアフリカヒゲシバも群生しており、飼料として導入されたものが、野生化したものである。

③ 飛行場付近

800mほどの滑走路の周囲は、大部分がリュウキュウチク、ハチジョウススキ、チガヤの群落となっている。また道路沿いには、イトスズメガヤやスズメノコビエ、アイダクグ等のイネ科やカヤツリグサ科の草本が多い。さらにリュウキュウチク林内で、絶滅危惧種のマツバランを見つけた。

④ 海岸

島の南端の東側にある切石港の周辺を探索した。『乙女の洞窟』と呼ばれる洞窟のある海岸付近は、急な傾斜地で植生はまばらである。後背地には、マルバニッケイやハマヒサカキ、クロキ等の低木が生え、海に近づくほど背丈が低くなる。岩礫地には、所々にオニヤブソテツ、ハマホラシノブなどのシダ植物が見られ、ソナレムグラやハマボッサ、ツワブキ等も観察できる。

砂浜はほとんどないが切石港近くの砂地では、グンバイヒルガオやスナヅルが群生し、その後背地には、クサトベラの群落も見られる。

⑤ 森林植生

近年の火山活動で溶岩の流出した諏訪之瀬島には、他の島ほど森林は発達していない。わずかに根上岳の南斜面からナベダオの周辺に、タブノキが優占する高さ15mほどの森林植生が見られる。この地域では植生調査を実施したので、その詳細は後で述べる。

また牧場から北東へ向かう一帯では、島の水源地にかけて谷沿いを中心に高さ10m程度の照葉樹林が見られる。尾根筋はオオバヤシャブシやマルバサツキの低木林となり、谷沿いはケエゴノキやタブノキ、ウラジロエノキなどの樹林帯となっている。林床にはヒサカキ、

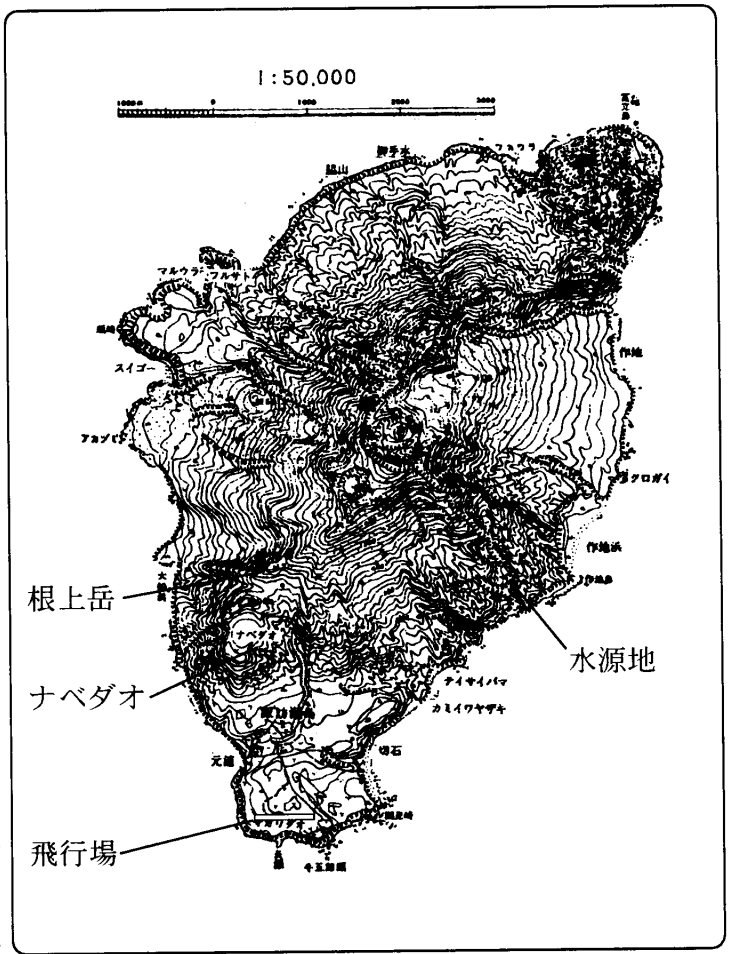


図2 諏訪之瀬島

ヒメユズリハ、クロキ、イヌビワなどの低木のほか、ユノミネシダやハチジョウベニシダ等のシダ植物も多い。

⑥ その他の植生

島の中央から北部、東部にかけての大部分は、活火山御岳の噴火による溶岩に覆われ、植生は貧弱である。今回の調査では御岳方面への登山は実施していないため詳細は不明であるが、遠望する限りでは、ハチジョウススキやマルバサツキ等のわずかな群落が所々に見られる程度であった。

3 採集および確認種についての考察

表1は、今回の調査で採集又は確認した植物種の一覧表である。合計73科180種の高等植物を確認し、そのうち137種は採集し標本にした。4日間という短い期間の上、12月という時期で夏型の草本の多くがすでに地上部が枯死し、確認できた種はそれほど多くない。

以下、それぞれの種についてその特徴等をまとめた。(表1の備考欄参照)

(1) 初記録種について

今回の調査で初めて諏訪之瀬島で記録された種は、シダ植物が2科2種。被子植物の双子葉類が4科4種、単子葉類が1科4種で合計7科10種であった。

① ヒメムカデクラマゴケ *Selaginella lutchuensis* (イワヒバ科)

県本土南部から沖縄まで分布するシダ植物で、トカラ列島では、臥蛇島、中之島、悪石島、宝島で記録がある。小さなシダなのでこれまで見落とされてきたものだろう。根上岳山麓の谷筋で採集した。

② ハチジョウベニシダ *Dryopteris caudipinna* (オシダ科)

ベニシダに似た常緑性のシダで、分布の中心は伊豆半島や伊豆諸島である。ベニシダは悪石島以北で確認されているので、区別されていなかったものと思われる。伊豆諸島から一足飛びにトカラ列島へ分布が見られる種は他にもあるが興味深い。島の南東部、水源地付近の低木林内で採集。

③ ニシキソウ *Euphorbia humifusa* var. *pseudochamaesyce* (トウダイグサ科)

日本本土全域の畑地や路傍に分布する一年生の草本である。近縁のコニシキソウは帰化植物で、すでにトカラ列島全域に帰化している。本土から侵入しつつある種のひとつであろう。集落内の路傍で採集。

④ アカバグミ *Elaeagnus × maritima* (グミ科)

ツルグミとマルバアキグミの雑種で、双方の特徴を備えている。集落近辺の路傍で、ツルグミ、マルバアキグミ、そしてこれらの雑種のアカバグミが混在しているのを見かけた。広くて丸いマルバアキグミの形態をした葉の裏は、ツルグミのように赤褐色をしている。

⑤ シマトネリコ *Fraxinus griffithii* (モクセイ科)

琉球から台湾、中国に分布するトネリコ属の一種。トカラ列島では、近縁のシマタゴは本島のほか口之島、中之島で記録があるが、この種は初記録である。

表1 諏訪之瀬島の植物・採集リスト

[○ 記録した種, ● 採集した種]

シダ植物 *Pteridophyta*

科名	和名	学名	記録・採集	備考
マツバラ科	マツバラ	<i>Psilotum nudum</i>	●	絶滅危惧Ⅱ類
イワヒバ科	ヒメムカデクラマゴケ	<i>Selaginella lutchuensis</i>	●	初記録
ワラビ科	ユノミネシダ	<i>Histiopteris incisa</i>	●	
	イシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i>	○	
	ハチジョウシダ	<i>Pteris fauriei</i>	●	
	ハマホラシノブ	<i>Sphenomeris biflora</i>	○	
シノブ科	タマシダ	<i>Nephrolepis cordifolia</i>	○	
オシダ科	オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	●	
	ナチシケシダ	<i>Deparia petersenii</i>	●	
	ハチジョウベニシダ	<i>Dryopteris caudipinna</i>	●	初記録
	ミゾシダ	<i>Stegnogramma pozoi</i> <i>ssp. mollissima</i>	○	
	ホシダ	<i>Thelypteris acuminata</i>	○	
シシガシラ科	ハチジョウカグマ	<i>Woodwardia orientaris</i> <i>var. formosana</i>	●	
チャセンシダ科	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>	○	絶滅危惧ⅠB類

[計 7科 14種]

種子植物 *Spermatophyta*裸子植物 *Gymnospermae*

科名	和名	学名	記録・採集	備考
マキ科	イヌマキ	<i>Podocarpus macrophyllus</i>	○	
マツ科	クロマツ	<i>Pinus thunbergii</i>	○	

[計 2科 2種]

被子植物 *Angiospermae* [双子葉類]

科名	和名	学名	記録・採集	備考
コショウ科	フウトウカズラ	<i>Piper kadzura</i>	●	
カバノキ科	オオバヤシャブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>	●	
ブナ科	スダジイ	<i>Castanopsis sieboldii</i>	○	
ニレ科	ウラジロエノキ	<i>Trema orientalis</i>	●	
クワ科	イヌビワ	<i>Ficus erecta</i>	●	
	ガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i>	○	
	ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	●	
イラクサ科	ニオウヤブマオ	<i>Boehmeria gigantea</i>	●	
	カラムシ	<i>Boehmeria nipononivea</i>	●	
	ハドノキ	<i>Oreocnide pedunculata</i>	●	
	ヤンバルツルマオ	<i>Pouzolzia zeylanica</i>	●	
ヤドリギ科	オオバヤドリギ	<i>Scurrula yadoriki</i>	●	
ツチトリモチ科	キイレツチトリモチ	<i>Balanophora tobiracola</i>	●	希れ

科名	和名	学名	認・雑	備考
タデ科	ツルソバ	<i>Persicaria chinensis</i>	●	
	イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	●	
	イタドリ	<i>Keynoutria japonica</i>	●	
キンボウゲ科	ヤンバルセンニンソウ	<i>Clematis meyeniana</i>	●	
	コバノボタンズル	<i>Clematis pierotii</i>	●	
アケビ科	ムベ	<i>Stauntonia hexaphylla</i>	●	
ツツラフジ科	ミヤコジマツツラフジ	<i>Pracyclea insularis</i>	●	
	ハスノハカズラ	<i>Stephania japonica</i>	●	
モクレン科	ビナンカズラ (サネカズラ)	<i>Kadsura japonica</i>	○	
クスノキ科	スナヅル	<i>Cassytha filiformis</i>	●	その他 準絶滅危惧種
	マルバニッケイ	<i>Cinnamomum daphnoides</i>	●	
	アオモジ	<i>Litsea citriodora</i>	●	
	ハマビワ	<i>Litsea japonica</i>	●	
	シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>	●	
	タブノキ	<i>Machilus thunbergii</i>	○	
ユキノシタ科	トカラアジサイ	<i>Hydrangea kawagoeana</i>	●	トカラ固有
トベラ科	トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>	●	
バラ科	ヤマザクラ	<i>Prunus jamazakura</i>	●	南限種
	シャリンバイ	<i>Rhaphiolepis indica var. umbellata</i>	●	
	オオバライチゴ	<i>Rubus croceacanthus</i>	○	
	ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	○	
	ビロードカジイチゴ	<i>Rubus ribisoideus</i>	●	
マメ科	ヒロハネム	<i>Albizia julibrissin var. glabrior</i>	●	
	ハマナタマメ	<i>Canavalia lineata</i>	○	
	クズ	<i>Pueraria lobata</i>	○	
カタバミ科	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	○	
	ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>	○	
ミカン科	ハマセンダン	<i>Euodia meliifolia</i>	●	
	カラスザンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i>	○	
トウダイグサ科	ヒメユズリハ	<i>Daphniphyllum teijsmannii</i>	●	初記録
	シマニシキソウ	<i>Euphorbia pilulifera</i>	●	
	ニシキソウ	<i>Euphorbia humifusa var. pseudochamaesyce</i>	○	
	カンコノキ	<i>Glochidion obovatum</i>	●	
	カキバカンコノキ	<i>Glochidion zeylanicum</i>	●	
	アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	○	
	ウルシ科	ハゼノキ	<i>Rhus succedanea</i>	
モチノキ科	モチノキ	<i>Ilex integra</i>	●	
ニシキギ科	モクレイシ	<i>Microtropis japonica</i>	●	
ミツバウツギ科	ショウベンノキ	<i>Turpinia ternata</i>	●	

科名	和名	学名	記録・採集	備考
ブドウ科	テリハノブドウ	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>glabrifolia</i>	●	
	エビヅル	<i>Vitis thunbergii</i>	●	
ホルトノキ科	コバンモチ	<i>Elaeocarpus japonicus</i>	●	
	ホルトノキ	<i>Elaeocarpus sylvestris</i> var. <i>ellipticus</i>	●	
アオイ科	サキシマフヨウ	<i>Hibiscus makinoi</i>	●	
	キンゴジカ	<i>Sida rhombifolia</i>	●	
ツバキ科	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	●	
	ハマヒサカキ	<i>Eurya emarginata</i>	●	
	ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	●	
スミレ科	タチツボスミレ	<i>Viola grypceras</i>	○	
	アツバスミレ	<i>Viola mandshurica</i> var. <i>triangularis</i>	●	
	リュウキュウコスミレ	<i>Viola pseudo-japonica</i>	●	
イイギリ科	イイギリ	<i>Idesia polycarpa</i>	●	
グミ科	ツルグミ	<i>Elaeagnus glabra</i>	●	
	マルバグミ	<i>Elaeagnus macrophylla</i>	●	
	マルバアキグミ	<i>Elaeagnus umbella</i> var. <i>rotundifolia</i>	●	
	アカバグミ	<i>Elaeagnus × maritima</i>	●	雑種, 初記録
アカバナ科	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>	○	帰化植物
ウコギ科	ウラジロタラノキ	<i>Aralia bipinnata</i>	○	
	カクレミノ	<i>Dendropanax trifidus</i>	○	
	フカノキ	<i>Schefflera octophylla</i>	●	
セリ科	ツボクサ	<i>Centella asiatica</i>	○	
	ボタンボウフウ	<i>Peucedanum japonicum</i>	○	
ツツジ科	マルバサツキ	<i>Rhododendron eriocarpum</i>	●	
	シャシャンボ	<i>Vaccinium bracteatum</i>	○	
ヤブコウジ科	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	●	
	カラタチバナ	<i>Ardisia crispa</i>	○	
	モクタチバナ	<i>Ardisia sieboldii</i>	○	
	シマイズセンリョウ	<i>Maesa tenera</i>	●	
サクラソウ科	ハマボッサ	<i>Lysimachia mauritiana</i>	○	
ハイノキ科	クロキ	<i>Symplocos lucida</i>	●	
エゴノキ科	ケエゴノキ	<i>Styrax japonica</i> f. <i>tomentosa</i>	●	
モクセイ科	シマトネリコ	<i>Fraxinus griffithii</i>	●	初記録
	ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>	●	
	オオモクセイ	<i>Osmanthus rigidus</i>	●	トカラ固有
フジウツギ科	ウラジロフジウツギ	<i>Buddleja curviflora</i>	●	
リンドウ科	へツカリンドウ	<i>Swertia tashiroi</i>	●	

科名	和名	学名	記録・採集	備考
キョウチクトウ科	サカキカズラ	<i>Anodendron affine</i>	●	
	リュウキュウテイカカズラ	<i>Trachelospermum gracilipes</i> var. <i>liukiense</i>	●	
ガガイモ科	ツルモウリンカ	<i>Tylophora tanakae</i>	●	
ヒルガオ科	ハマヒルガオ	<i>Calystegia soldanella</i>	○	
	ノアサガオ	<i>Ipomoea indica</i>	●	
	グンバイヒルガオ	<i>Ipomoea pes-caprae</i>	●	
クマツヅラ科	オオムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>luxurians</i>	●	
	ショウロウクサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i> var. <i>esculentum</i>	●	
	アマクサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i> var. <i>yakusimense</i>	●	
	イワダレソウ	<i>Lippia nodiflora</i>	●	
	ハマゴウ	<i>Vitex rotundifolia</i>	●	
シソ科	ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i>	○	
アカザ科	アリタソウ	<i>Ambrina ambrosioides</i>	○	
ナス科	マルバハダカホオズキ	<i>Tubocapsicum anomalum</i> var. <i>obtusum</i>	●	
ハマウツボ科	ナンバンギセル	<i>Aeginetia indica</i>	●	
アカネ科	ビジンジュズネノキ	<i>Damnacanthus indicus</i> var. <i>intermedius</i>	●	
	クチナシ	<i>Gardenia jasminodes</i>	●	
	ソナレムグラ	<i>Hedyotis biflora</i> var. <i>parvifolia</i>	○	
	ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>	●	
	シラタマカズラ	<i>Psychotria serpens</i>	●	
スイカズラ科	ハマニンドウ	<i>Lonicera affinis</i>	●	
	サンゴジュ	<i>Viburnum odoratissimum</i> var. <i>awabuki</i>	●	
ウリ科	アマチャズル	<i>Gynostemna pentaphylla</i>	●	
キキョウ科	ヒナギキョウ	<i>Wahlenbergia marginata</i>	●	
クサトベラ科	クサトベラ	<i>Scaevola sericea</i>	●	
キク科	ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	●	
	シロバナセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>	●	
	オオキバナムカシヨモギ	<i>Blumea conspicua</i>	●	初記録
	ホソバワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i>	●	
	ウスベニニガナ	<i>Emilia sonchifolia</i>	●	
	ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i>	●	
	ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>	●	
	アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i>	●	
	ツクシメナモミ	<i>Siegesbeckia orientalis</i>	●	
	オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>	●	

[計 57科 124種]

[単子葉類]

科名	和名	学名	記録・状態	備考
イネ科	コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>	●	
	アフリカヒゲシバ	<i>Chloris gayana</i>	○	帰化植物
	メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>	●	
	オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>	●	
	イトスズメガヤ	<i>Eragrostis bulbifera</i>	●	
	チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i>	●	
	ハチジョウススキ	<i>Miscanthus condensatus</i>	○	
	エダウチチヂミザサ	<i>Oplismenus compositus</i>	●	
	オオバチヂミザサ	<i>Oplismenus compositus</i> var. <i>patens</i>	●	
	スズメノコビエ	<i>Paspalum scrobiculatum</i>	●	
	チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	●	
	ネピアグラス	<i>Pennisetum purpureum</i>	●	帰化植物
	リュウキュウチク	<i>Pleioblastus linearis</i>	○	
	コツブキンエノコロ	<i>Setaria pallide-fusca</i>	●	
	ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i>	●	
	コウライシバ	<i>Zoysia tenuifolia</i>	○	
カヤツリグサ科	トカラカンスゲ	<i>Carex conica</i> var. <i>scabrocaudata</i>	●	トカラ固有
	ヒゲスゲ	<i>Carex oahuensis</i> var. <i>robusta</i>	○	
	アイダクグ	<i>Cyperus brevifolius</i>	●	
	イガガヤツリ	<i>Cyperus polystachyos</i>	●	
	クグテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> f. <i>floribunda</i>	●	
ヤシ科	ビロウ	<i>Livistona chinensis</i> var. <i>subglobosa</i>	○	
サトイモ科	ムサシアブミ	<i>Arisaema ringens</i>	●	
ツユクサ科	シマイボクサ	<i>Murdannia loriformis</i>	●	
ユリ科	ハラン	<i>Aspidistra elatior</i>	●	トカラ固有
	キキョウラン	<i>Dianella ensifolia</i>	●	
	カラスキバサンキライ	<i>Heterosmilax japonica</i>	●	
	テッポウユリ	<i>Lilium longiflorum</i>	○	
	ノシラン	<i>Ophiopogon jaburan</i>	●	
	サツマサンキライ	<i>Smilax bracteata</i>	●	
	ハマサルトリイバラ	<i>Smilax sebeana</i>	●	
ヤマノイモ科	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	●	その他
ラン科	アカバシユスラン	<i>Cheirostylis liukiensis</i>	●	
	ツユクサシユスラン	<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>commelinoides</i>	●	初記録
	シマシユスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	●	初記録 絶滅危惧ⅠB類
	ヤクシマアカシユスラン	<i>Hetaeria cristata</i>	●	絶滅危惧ⅠB類
	コ克蘭	<i>Liparis nervosa</i>	●	初記録
	カ克蘭 (カクチョウラン)	<i>Phaius tancarvilleae</i>	●	絶滅危惧ⅠB類
	カゲロウラン	<i>Hetaeria agyokuana</i>	●	初記録 絶滅危惧Ⅱ類
	イシガキキヌラン	<i>Zeuxine flava</i>	●	希れ

[計 8科 40種]
総計 73科 180種

⑥ オオキバナムカシヨモギ *Blumea conspicua* (キク科)

ツルハグマ属の一種で、種子島・屋久島以南の各島に分布している。トカラ列島では、本島と小宝島以外の各島では記録されていたものである。ナベダオ山頂直下のタブノキ林内で採集した。

⑦ ツユクサシスラン *Goodyera foliosa* var. *commelinoides* (ラン科)

五島列島、天草から九州南部、屋久島、奄美大島、琉球に希に分布するシスランの仲間である。トカラ列島では口之島と悪石島で記録があるが、本島では初記録となる。島の南東部、水源地となっている谷の低木林内で採集した。

⑧ シマシスラン *Goodyera viridiflora* (ラン科)

トカラ列島では中之島と宝島でしか確認されていないシスランの仲間、常緑樹林に生える。本島では、根上岳山頂付近のタブノキ林内で採集した。

⑨ コ克蘭 *Liparis nervosa* (ラン科)

常緑樹林下に生えるクモキリソウ属の一種で、関東南部から九州、中国、台湾に分布する。トカラ列島では中之島だけで記録されていた種である。根上岳南斜面のタブノキ林内で採集。

⑩ カゲロウラン *Hetaeria agyokuana* (ラン科)

常緑樹林下に生えるヒメノヤガラ属の一種。四国・九州の南部から台湾にかけて分布している。トカラ列島では口之島と中之島で記録がある。ナベダオ山頂近くのタブノキ林内で採集した。

今回新たに記録した植物の中で、ラン科の4種はいずれもタブノキやスタジイが優占する常緑樹林内で採集したものである。これら小型のランは葉の形態がよく似ており、花が咲いていないと区別は難しい。根上岳やナベダオ山中の照葉樹林下では、これら以外にも各種のラン科植物が分布し、定着している可能性がある。

(2) 絶滅危惧種及び希な種について

① マツバラン *Psilotum nudum* (マツバラン科) 絶滅危惧Ⅱ類

原始的なシダ植物で世界に二種存在し、そのうちの一種が西南日本から中国にかけて分布している本種である。開発や乱獲で個体数が減少し、危急種に指定された。トカラ列島では本島の他中之島、悪石島、宝島で記録がある。樹幹に着生していることが多いが、ここでは空港近くのリュウキュウチク林の地表で数株を確認した。

② オオタニワタリ *Asplenium antiquum* (チャセンシダ科) 絶滅危惧ⅠB類

紀伊半島や四国・九州の南部、南西諸島以南に分布するやや大型のシダ植物で、樹幹や岩上に着生する。トカラ列島でも全島で確認されており、庭などにもよく栽培される。園芸用として乱獲されたため野生の個体数の減少が懸念されている。集落周辺の道路沿いの樹上や、庭先でも見かけた。

③ キイレツチトリモチ *Balanophora tobiracola* (ツチトリモチ科)

一年生の寄生植物でトベラやネズミモチの根に寄生し、秋から冬に長さ10cmほどの円筒形の茎を伸ばして先端に淡黄色の花をつける。九州南部から琉球に分布しているが個体数は少なく、鹿児島市吉野町の産地は国の天然記念物に指定されている。

トカラ列島では本島と宝島だけに記録があり、今回は根上岳山頂付近の林内で採集した。

④ マルバニッケイ *Cinnamomum daphnoides* (クスノキ科) 準絶滅危惧種 (平成12年版より変更)

主に鹿児島県本土南部から種子島、屋久島、トカラ列島に分布するニッケイ属の一種。トカラ列島では海岸風衝低木林を構成する主要な樹種であり、全島に分布する。

⑤ オオモクセイ *Osmanthus rigidus* (モクセイ科) 絶滅危惧情報不足 → (3)トカラ固有種
②の項参照。分布域が非常に狭いので、レッドデータリストでは情報不足となっている。今回の調査では数個体を確認した。また、8月の口之島の調査でも数個体を確認している。

⑥ シマシュスラン *Goodyera viridiflora* (ラン科) 絶滅危惧 I B類 → (1)初記録種の⑧の項参照。根上岳山頂付近で確認したが、個体数は少ない。

⑦ ヤクシマアカシュスラン *Hetaeria cristata* (ラン科) 絶滅危惧 I B類

伊豆の三宅島・神津島と九州南部以南から東南アジアに分布するヒメノヤガラ属の一種。常緑樹林下に生え、高さ10~20cmで倒卵形の葉は乾くと赤くなり、花も紅色を帯びる。トカラ列島では口之島、中之島と本島で記録があり、根上岳山頂近くのタブノキ林内で採集した。

⑧ カクラン [カクチョウラン] *Phaius tancarvilleae* (ラン科) 絶滅危惧 I B類

種子島・屋久島以南の亜熱帯林にまれに生えるガンゼキラン属の一種。葉は長さ70cmになる大型のランで、5~6月に総状花を数個つける。トカラ列島では口之島と本島のみで記録がある。ナベダオ山麓の谷筋で採集した。

⑨ カゲロウラン *Hetaeria agyokuana* (ラン科) 絶滅危惧 II類 → (1)初記録種の項の⑩参照
日本の分布域は広いが、生息個体数は少ない。トカラ列島でも口之島、中之島と本島にしか確認されていない。

⑩ イシガキキヌラン *Zeuxine flava* (ラン科) 平成12年版から準絶滅危惧種削除

屋久島以南の常緑樹林に生えるキヌラン属の一種。茎高は20cm程度で卵形の葉を3~5枚つけ、黄色の小さな花が春に咲く。トカラ列島では本島と宝島で記録がある。島の東南部、水源地付近の低木林内で採集した。

(3) トカラの固有種について

トカラ列島の島々は火山性の島が多く、起源が新しいので固有種は少ないといわれているが、この地域で独自に変異し、進化したと考えられる固有な植物も見られる。

① トカラアジサイ *Hydrangea kawagoeana* (ユキノシタ科)

平島と小宝島を除くトカラ列島の全島と徳之島、沖永良部島に分布するガクウツギの仲間、ヤクシマアジサイとよく似ている。本島でも路傍や牧場などにふつうに見られ、個体数は

多い。5～6月に枝先に大きな散房花序をつけるが、装飾花は少ない。

② オオモクセイ *Osmanthus rigidus* (モクセイ科)

本島の他、口之島、中之島および三島村の黒島だけに見られるモクセイ属の一種。高さ2～3mの常緑低木で、秋に白い花をつける。根上岳山頂近くのタブノキ林内で採集した。

③ トカラカンスゲ *Carex conica* var. *scabrocaudata* (カヤツリグサ科)

ヒメカンスゲの変種で常緑性である。トカラ列島の口之島、中之島、臥蛇島、諏訪之瀬島、悪石島と宝島それに三島村の黒島で確認されている。本島では、ナベダオ山麓の谷筋で採集した。

④ ハラン *Aspidistra elatior* (ユリ科)

園芸用として庭などにもよく植栽されるユリ科の多年草。中国原産といわれていたが、近年原産地は本島と三島村の黒島であることが確認された。長さ30～40cmの深緑色でつやのある葉が地表に群生する。花は4月頃地表で開花するので目に付きにくい。現在確認されている自生地は、諏訪之瀬島と黒島の他、宇治群島の向島のみである。本島では、根上岳とナベダオの頂上直下の低木林の二カ所だけで確認できた。

* その他、口之島と諏訪之瀬島だけに自生するトカラタマアジサイについては、今回確認することができなかった。

(4) その他の特徴的な植物

① スナヅル *Cassytha filiformis* (クスノキ科)

屋久島以南の海岸の砂地に生える寄生性のつる植物で、太さ1～2mmの淡黄色の茎が分枝して長くのび、他の物にまとわりつく。諏訪之瀬島では、島の南端の切石港近くの海岸で群生しているのを確認した。

② ヤマザクラ *Prunus jamazakura* (バラ科) 南限種

本州、四国、九州の温帯から暖帯に広く分布するサクラ属の落葉高木で、3～4月に淡紅色の花をつける。諏訪之瀬島が南限地として知られており、根上岳やナベダオ周辺のタブノキ林内に20～30株を確認した。大きなものは、胸高直径50cm、樹高15mほどの個体もあるが、幼樹や実生は見られなかった。

③ コマツヨイグサ *Oenothera laciniata* (アカバナ科) 帰化植物

平田(1995)では、中之島と小宝島だけの記録種となっているが、志内(1995)は、口之島、諏訪之瀬島、悪石島、宝島での新たな帰化を確認している。

④ アフリカヒゲシバ *Chloris gayana* (イネ科) 帰化植物

平田(1995)では、平島と宝島での記録。志内(1995)は口之島、諏訪之瀬島、悪石島、小宝島での帰化を確認している。

⑤ ネピアグラス *Pennisetum purpureum* (イネ科) 帰化植物

熱帯アメリカ原産。平田(1995)では中之島のみ。志内(1995)は新たに諏訪之瀬島での帰化も確認している。

⑥ ヤマノイモ *Dioscorea japonica* (ヤマノイモ科)

平田(1995)はヤマノイモは口之島までで、中之島以南はキールンヤマノイモが分布しているとしている。志内(1995)はヤマノイモとキールンヤマノイモの区別は難しく、全島ヤマノイモとしている。諏訪之瀬島の当該種も、葉の形態はヤマノイモに近く、初島住彦氏の同定も得て、ヤマノイモとした。

4 諏訪之瀬島の森林植生

諏訪之瀬島の中部から北部にかけては、急傾斜地や溶岩流に覆われて一般に植生は貧弱である。しかし島の南西部の根上岳やナベダオの周囲、それに南東部の水源地付近には、若干の森林植生を観察できる。表2及び表3は、諏訪之瀬島でも数少ないこれらの森林植生で行った植生調査の結果を示したものである。

表2は、島の南西部にある標高470mの根上岳の南側斜面、標高380m地点での植生調査結果である。高木層の樹高は約15mでタブノキが優占し、シロダモも多い。また南限種のヤマザクラが所々にみられる。樹高が低いので亜高木層は形成されておらず、低木層もリュウキュウチクが一部に見られる程度である。なおこれらのリュウキュウチクは林内の照度不足で、多くが生育不良であった。草本層は植被率が高く、ハスノハカズラやシマイズセンリョウなどに広く覆われていた。

表3は、同じく南西部根上岳の南南西に位置する標高400mのナベダオの北東側の斜面、海拔290m付近での調査結果である。こちらは樹高12mほどのタブノキが優占種で、ヤマザクラも多い。亜高木層は形成されておらず、低木層もほとんどないので林内の空間は広く開いている。草本層の植被率はやや高い程度である。

樹種や樹高、リュウキュウチクやヤマザクラ等の陽生植物が含まれていることから、いずれの森林も遷移の途上にあり、今後時間をかけて極相林に向かうものと思われる。

おわりに

温帯植物と亜熱帯植物の移行帯といわれるトカラ列島のほぼ中央に位置する諏訪之瀬島で、4日間にわたる植物の調査と採集を行った結果を記した。短期間の上、冬季の調査であったため十分な調査とはいえないが、180種の高等植物を確認し、そのうち137種を採集した。

活発な火山活動を続ける御岳の影響もあって全般的に植生は貧弱であるが、根上岳やナベダオ、さらに南東部の水源地付近の森林で10種の初記録種を確認した。さらにトカラ列島固有種のトカラカンスゲやオオモクセイ、ハラン、絶滅危惧種のマツバランやヤクシマアカシユスラン、カクチョウランなども採集できた。森林部分については、今後調査を継続することで新たな種を見つけることも可能と思われる。また人の往来によって、新たに帰化する植物も増すものと考えられる。

表2 諏訪之瀬島植生調査表① 根上岳南斜面

調査日: 2000年12月6日		調査地名: 諏訪之瀬島 根上岳南斜面				調査者: 森田康夫・丸野勝敏					
経緯度: 北緯29度37分 東経129度50分		海拔 380m		方位S	傾斜 10度	調査面積 20×20m					
調査地点の概要		山の中腹部, 斜面, 風当たりは中, 土湿は適				階層構造					
高木・亜高木層の種名		優占度		群度		草本層の種名		優占度		群度	
										高さ 植被率	
1	タブノキ	3	2	1	シロダモ	3	2	高木層	15m	80%	
2	シロダモ	2	2	2	ハスノハカズラ	2	2	亜高木層	未形成		
3	ヒメユズリハ	1	1	3	シマイズセンリョウ	2	1	低木層	3m	30%	
4	スダジイ	1	1	4	トカラアジサイ	1	1	草本層	1m	90%	
5	コバンモチ	1	1	5	ムサシアブミ	1	1	最大胸高直径 70cm			
6	カクレミノ	1	1	6	リュウキュウチク	1	1	樹種 タブノキ			
7	フカノキ	1	1	7	ヤンバルセンニンソウ	1	1				
8	カラスザンショウ	1	1	8	ハチジョウベニシダ	1	1				
9	ケエゴノキ	1	1	9	ビロウ	+		草本層の種名 優占度 群度			
10	ヤマザクラ	1	1	10	コバノジュズネノキ	+		15	サカキカズラ	+	
11	オオバヤドリギ	+		11	イヌビワ	+		16	カラスギバサンキライ	+	
低木層の種名		優占度		群度		12	マルバグミ	+	17	エダウチチヂミザサ	+
1	リュウキュウチク	2	2	14	アマチャズル	+		18	ミゾシダ	+	
								19	ナチシケシダ	+	

表3 諏訪之瀬島植生調査票② ナベダオ北東斜面

調査日: 2000年12月6日		調査地名: 諏訪之瀬島 ナベダオ北東斜面				調査者: 森田康夫・丸野勝敏					
経緯度: 北緯29度37分 東経129度49分		海拔 290m		方位NE	傾斜 10度	調査面積 20×20m					
調査地点の概要		山の中腹部, 斜面, 風当たりは中, 土湿は適				階層構造					
高木・亜高木層の種名		優占度		群度		草本層の種名		優占度		群度	
										高さ 植被率	
1	タブノキ	3	3	1	シロダモ	2	2	高木層	12m	90%	
2	ヤマザクラ	2	2	2	リュウキュウチク	2	2	亜高木層	未形成		
3	ヤマグワ	1	1	3	シマイズセンリョウ	1	1	低木層	2m	30%	
4	オオモクセイ	1	1	4	トカラアジサイ	1	1	草本層	1m	60%	
5	ケエゴノキ	1	1	5	ビロウ	1	1	最大胸高直径 80cm			
6	カクレミノ	1	1	6	モクタチバナ	1	1	樹種 ヤマザクラ			
7	ネズミモチ	+		7	コバノジュズネノキ	1	1				
8	フカノキ	+		8	ハスノハカズラ	1	1				
低木層の種名		優占度		群度		9	タチツボスミレ	1	1	草本層の種名 優占度 群度	
								10	ハチジョウベニシダ	1	1
								11	エダウチチヂミザサ	1	1
								12	イヌビワ	+	
								13	トベラ	+	
1	リュウキュウチク	1	1	14	ツルモウリンカ	+		15	ボタンヅル	+	
								16	ミゾシダ	+	

引用・参考文献

- ①初島住彦, 1975. トカラ列島の植物相. 鹿児島植物, 3, 1-42.
- ②迫静夫・桐野秀信, 1980. 諏訪之瀬島の植物. 鹿児島大学演習林報告, 8, 19-53.
- ③川窪伸光・田川日出夫, 1991. 平成2年度南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究報告書. 南西諸島北部域, 薩南諸島における維管束植物の分布. 環境庁自然保護局, 51-109
- ④立久井昭雄, 1992. トカラ列島諏訪之瀬島の植物. 鹿児島県立博物館研究報告(第11号), 17-27.
- ⑤平田浩, 1995. 十島村史, 56-146
- ⑥志内利明, 1995. 修士論文 トカラ列島の植物相. 鹿児島大学理学研究科系統分類学講座
- ⑦初島住彦, 1991. 北琉球の植物



写真1 根上岳のタブノキ林

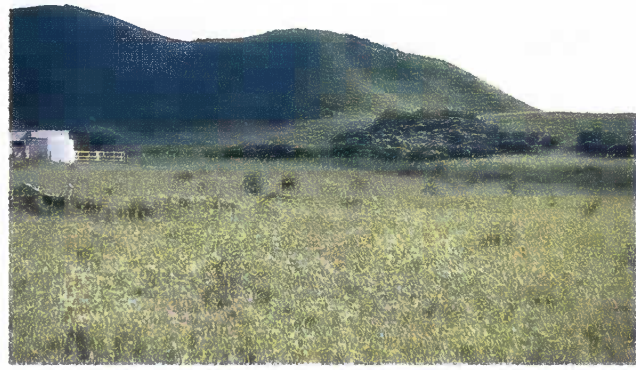


写真2 島南部の牧場(リュウキュウチク)



写真3 南限種ヤマザクラ



写真4 ハラン(トカラ列島固有種)



写真5 オオバヤドリギの花



写真6 オオムラサキシキブの実



写真7 クサトベラ群落



写真8 スナズル